

題名 :

中国石炭産業の現状と課題

執筆者

佐川 篤男 戦略・産業ユニット 新エネルギー技術・石炭グループ 研究主幹

要旨 :

中国は世界最大の石炭生産・消費国であると同時に石炭輸出国でもある。ピーク時には 9,000 万トンを超える石炭を輸出したが、2003 年後半からの中国国内の石炭需給逼迫を受けて、石炭輸出量は減少し、輸入量は増加し、2007 年に入り輸入量が輸出量を上回っている。この輸出減と輸入増は、2003 年後半からの世界の石炭市場における需給逼迫、価格高騰の要因の一つであることは言うまでもなく、中国炭を近距離ソースとしてその輸入量を拡大してきた我が国を始め韓国、台湾の輸入炭調達に少なからず影響を与えている。

本報告では、中国の石炭需給の現状を捉えるとともに、今後の中国の石炭産業を見るうえで重要なポイントとなると思われる、石炭政策（第 11 次 5 カ年規画）、石炭需給見通し、石炭輸送インフラ計画の 3 項目について取りまとめる。

中国は 2006 年に約 23.7 億トンの石炭を消費し、23.82 億トンを生産している。今後も発電用石炭を中心に鉄鋼業等での原料、各産業でのエネルギー源など持続的経済発展をささえる重要な一次エネルギーとして石炭消費は増加し、2030 年には 37.6 億トンにまで増加すると予測されている。中国ではこの石炭需要の大部分をこれまでどおり自国産石炭で賄うことになる。このため中国政府は、13 の石炭生産基地を選定し、この基地を中心に大型炭鉱の建設を進める一方小型炭鉱の整理を進めることで生産構造の改革を行ない、競争力があり安定供給が可能な石炭産業の構築を目指している。

また、これまでも石炭供給のボトル・ネックとなってきた石炭輸送インフラ整備も進められている。鉄道においては中国の石炭供給基地である三西地区からの路線の輸送能力拡張が大秦線を中心に進められ、積出港ではこれら路線につながる秦皇島港、天津港などの既存港の整備や新規港の建設が進められている。これらの計画が順調に進捗することで、中国の石炭供給は安定する。さらに中・長期的な安定供給の持続を目指して、第 12 次 5 カ年規画以降においても生産能力の拡大と輸送インフラ整備が進められることになる。

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp